

---

# 大学における研究データ管理に関するアンケート(雛形)

青木 学聡(名古屋大学)

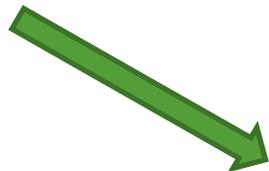
# 「大学における研究データ管理に関するアンケート(雛形)」

---

- 2020年1月に公開
- <https://rdm.axies.jp/sig/24/>  
(AXIES Webページにリニューアルにより変更)
- 各機関でご活用ください。
  - 「使ってみました」というフィードバックでも嬉しい
  - 横断分析用にデータを提供いただけるともっと嬉しい

# 研究者アンケートの位置づけ

研究者に  
組織的対応の  
現状を伝える



研究者の実態  
を把握する



- ポリシー・基本概念
- 組織構築
- 戦略立案
- 情報システム
- 法的・倫理的制約
- ユーザ教育
- ユーザコミュニケーション
- ユースケース
- KPI設定
- ...

# アンケート雛形の検討と実施

- 8月—10月 アンケート雛形の検討
  - 名古屋大学の実施例を参考
  - AXIESとして必須の項目に加え、各機関での独自質問項目の追加も認める
  - 複数のAXIESと機関が協力し横断分析できるよう「利用ガイド」等を整備
- 11月— 12月 北大、京大、大阪府大、広大でアンケート実施。AXIES年次大会で中間報告
- 3月情報処理学会 IOT 研究会で報告  
<http://id.nii.ac.jp/1001/00203410/>

# アンケートから得られた事

- 大学間の差異はほとんどない
  - 「雛形に沿ってアンケートを実施する」と考えた時点で、実施側、受信側双方が一定のリテラシレベルに達している？
- 「RDM=データ保存」という意識は根強い。
- 「データ公開」に対しては、消極的な意見も多く、研究者毎の印象は様々ではないか。
- 分野、職種ごとの分析をするとよいか。
- アンケート結果の収集、分析のワークフローを (AXIESという)コミュニティベースでどう作るか？

# アンケートの利用方法

- AXIESのwebサイトから入手  
<https://rdm.axies.jp/sig/24/>
  - データ提供の協力
    - AXIES RDM部会幹事に提出
    - オープンデータとして、機関リポジトリ等に公開してしまう
- いずれも、アンケート実施時に、データの公開、提供、利用について回答者からの合意が必要

# OF参加者へのアンケート

---

- アンケートを実施する計画はありますか？
- アンケートにより「実施者(執行部、支援部門等)」が得るメリットは何ですか？
- アンケートを実施することで「回答者(研究者)」が得るメリットは何ですか？

---

参考資料

# アンケート先行実施結果のまとめ

雛形は <https://rdm.axies.jp/sig/24/>

解説は <http://id.nii.ac.jp/1001/00203410/>

# アンケートの構成:前文

---

- アンケート実施の背景と目的
  - 研究データと研究データ管理
  - 学術機関による研究データ管理を取り巻く現状
  - 本学における研究データ管理(実施機関に応じて記述)
  - アンケート内容、回答結果の取扱いについて

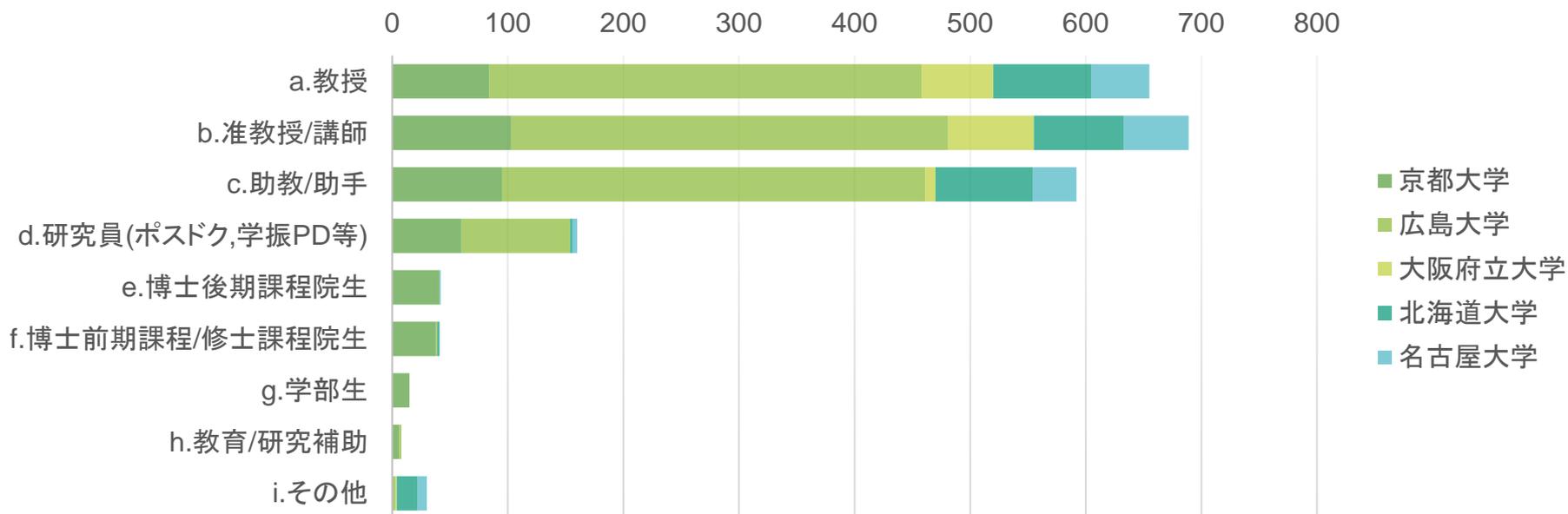
# アンケートの構成:属性

- 所属、氏名、メールアドレス
  - 記名、無記名、いずれも可とした(AXIESでは回収しない)
- 職位  
[a.教授, b.准教授/講師, c.助教/助手, d.研究員(ポスドク,学振PD等), e.博士後期課程院生, f.博士前期課程院生, g.学部生, h.教育/研究補助, i.その他]
- 分野  
総務省統計局「平成30年科学技術研究調査」の分野分類を利用  
[a.文学, b.法学, c.経済学, d.その他の人文・社会科学, e.理学, f.工学, g.農学, h.医学・歯学・薬学, i.その他保健, j.家政学, k.教育学, l.その他]

# アンケートの構成:質問

- Q01. RDMに関する理解度の確認
- Q02. 研究公正維持のためのデータ保存規程の理解
- Q03. 現在の研究データの保管方法
- Q04. 研究データのバックアップ状況
- Q05. 研究公正維持を目的としたデータ保存の対応状況
- Q06. 機関が整備する研究データ管理環境の必要性
  - Q06.1. 管理対象となるデータのサイズ
  - Q06.2. データの種類
- Q07. 機関が整備する研究データ公開環境の必要性
  - Q07.1. 公開対象となるデータのサイズ
  - Q07.2. データの種類
  - Q07.3. データセットの内容
- Q08. 研究データの公開, 共有の状況
- Q09. 機関による研究データ管理環境への期待
- Q10. 機関による研究データ公開環境への期待

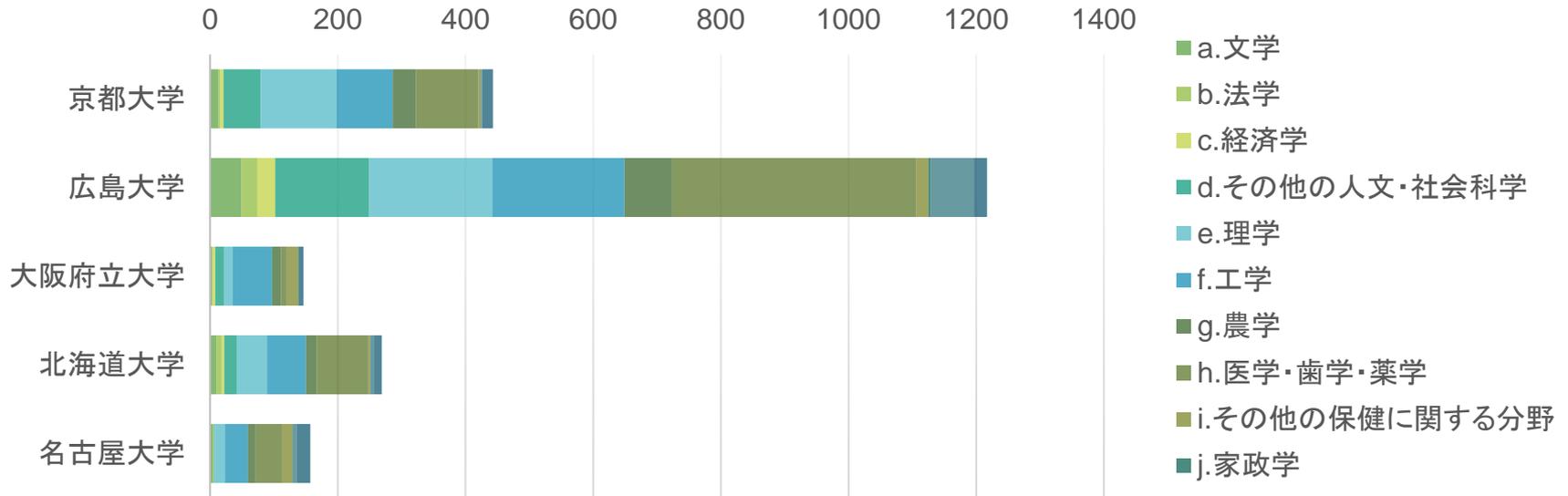
# 回答者数:職位(N=2232)



機関	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.	i.	総計
京都大学	84	103	95	60	41	38	15	6	1	443
広島大学	374	378	366	94		1		2	2	1217
大阪府立大学	62	74	9						1	146
北海道大学	85	78	84	2		2			18	269
名古屋大学	50	56	38	4	1				8	157
総計	655	689	592	160	42	41	15	8	30	2232

a.教授 b.准教授/講師 c.助教/助手 d.研究員(ポスドク,学振PD等) e.博士後期課程院生  
f.博士前期課程/修士課程院生 g.学部生 h.教育/研究補助 i.その他

# 回答者数:分野(N=2232)

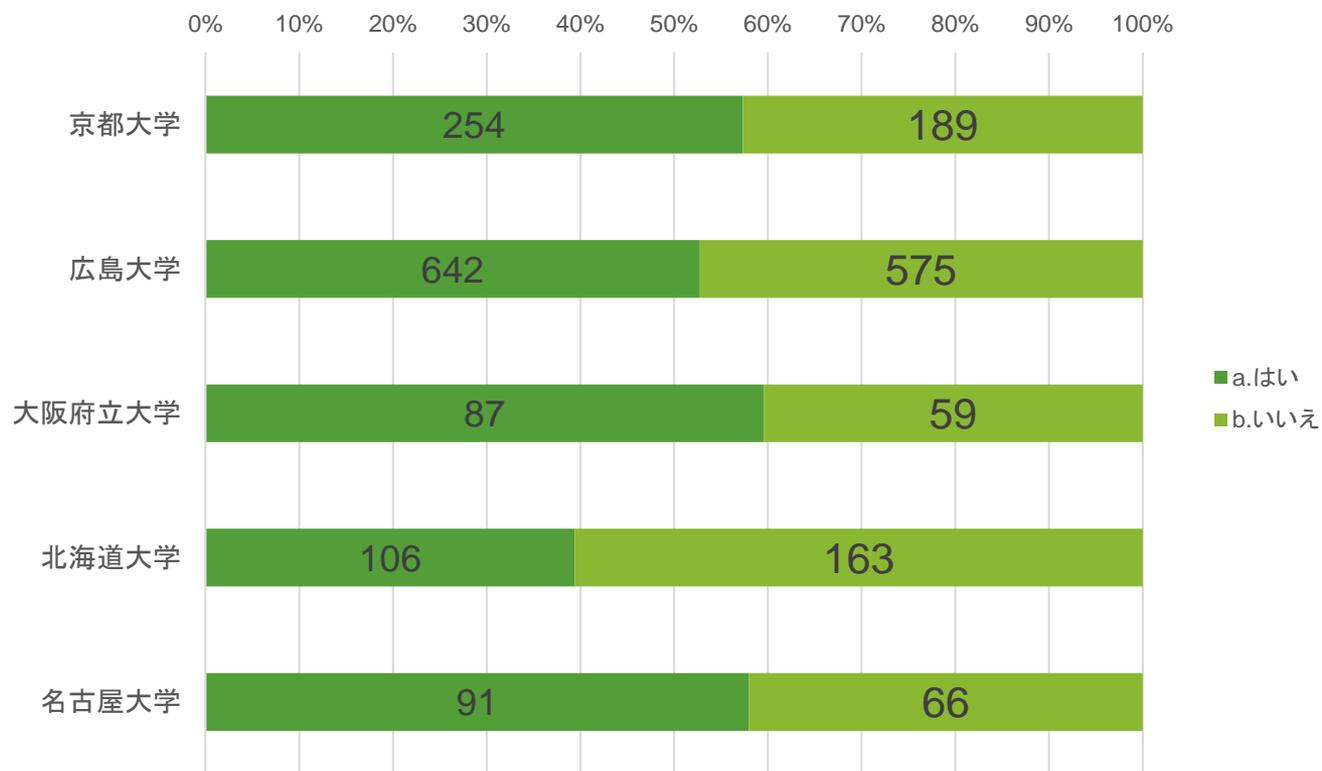


機関	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.	i.	j.	k.	l.	総計
京都大学	13	3	5	58	119	88	36	98	4		2	17	443
広島大学	49	25	28	147	193	207	75	382	19	4	67	21	1217
大阪府立大学	3	1	4	14	13	62	14	9	18	1		7	146
北海道大学	10	8	4	20	47	61	17	81	3		6	12	269
名古屋大学	4	2		1	16	36	12	42	16		7	21	157
総計	79	39	41	240	388	454	154	612	60	5	82	78	2232

a.文学 b.法学 c.経済学 d.その他の人文・社会科学 e.理学 f.工学 g.農学 h.医学・歯学・薬学  
i.その他の保健に関する分野 j.家政学 k.教育学 l.その他

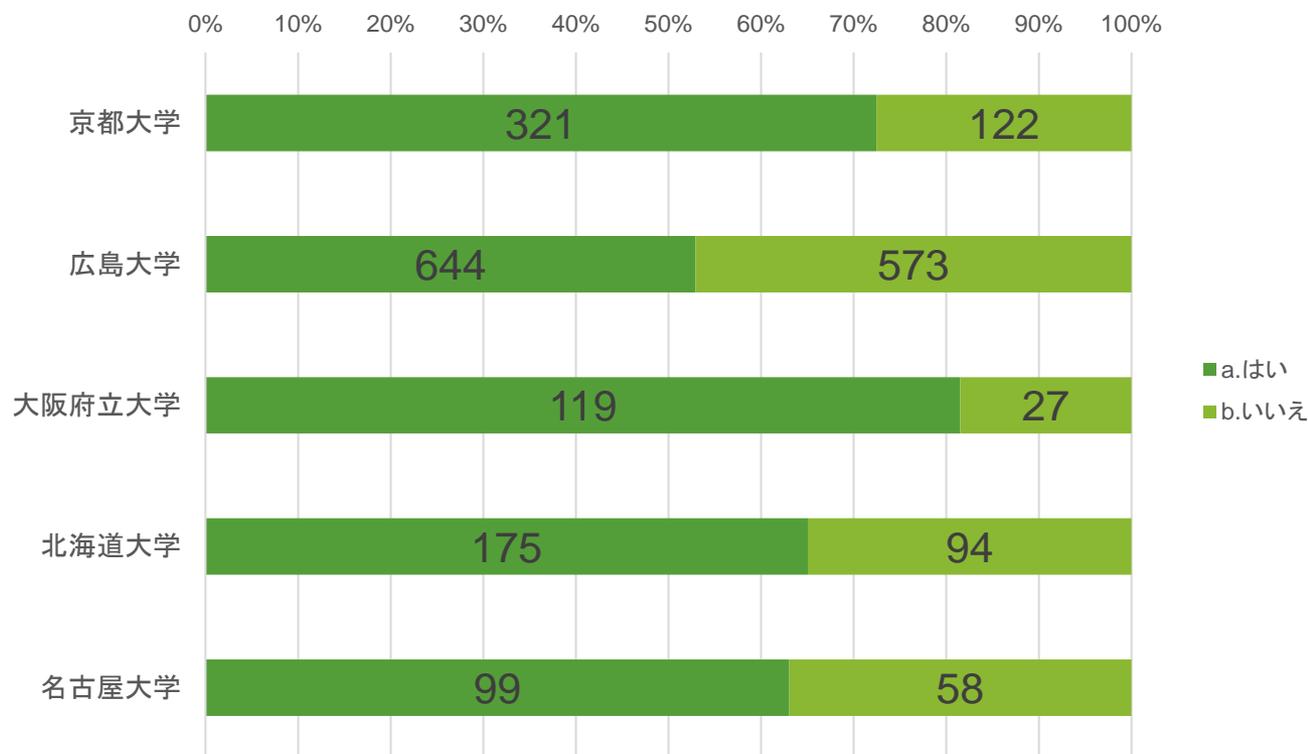
# Q01. RDMに関する理解度の確認

Q01. 学術機関による研究データ管理について、アンケート前文で述べたような国内外の動向を知っていましたか？



# Q02. 研究公正維持のための データ保存規程の理解

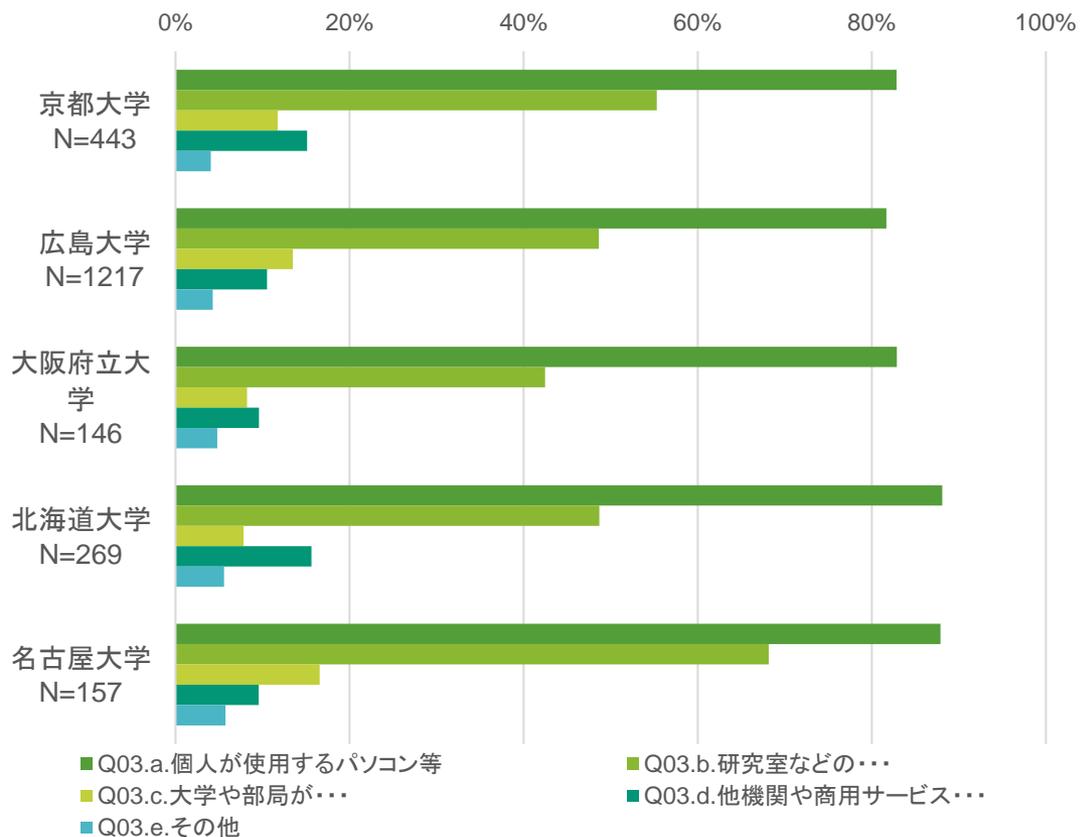
Q2. ○○大学の研究データ保存についての規程(規定名)で、「研究資料等の保存期間は論文等の発表後○年間」と定められていることを知っていますか？



# Q03. 現在の研究データの保管方法

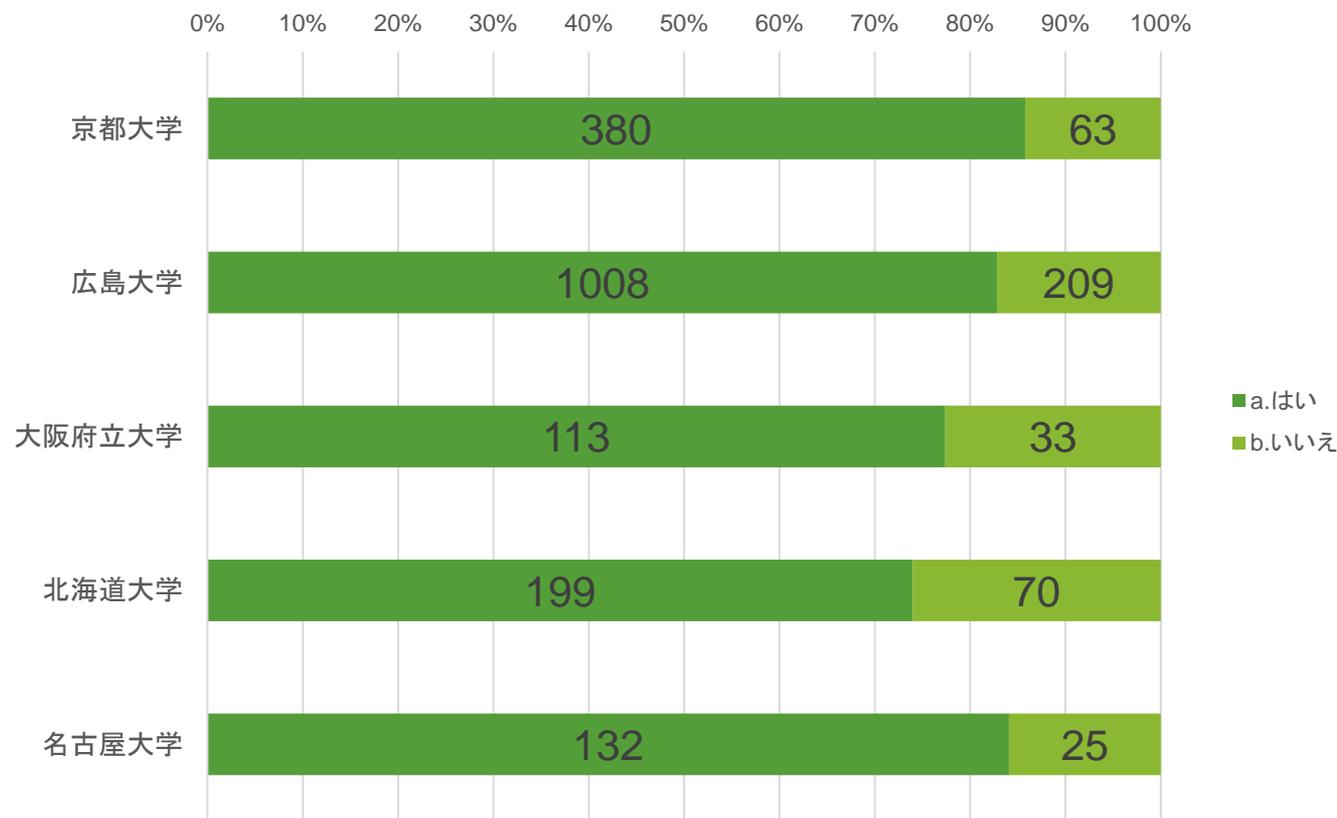
Q03. 収集・作成した研究データをどのように保管していますか？  
(複数選択可)

- a. 個人が使用するパソコンやディスクなどに保管
- b. 研究室などの研究組織が管理するサーバやストレージなどに保管
- c. 大学や部局が管理するストレージなどに保管
- d. 他機関や商用サービスによる学外クラウドに保管
- e. その他



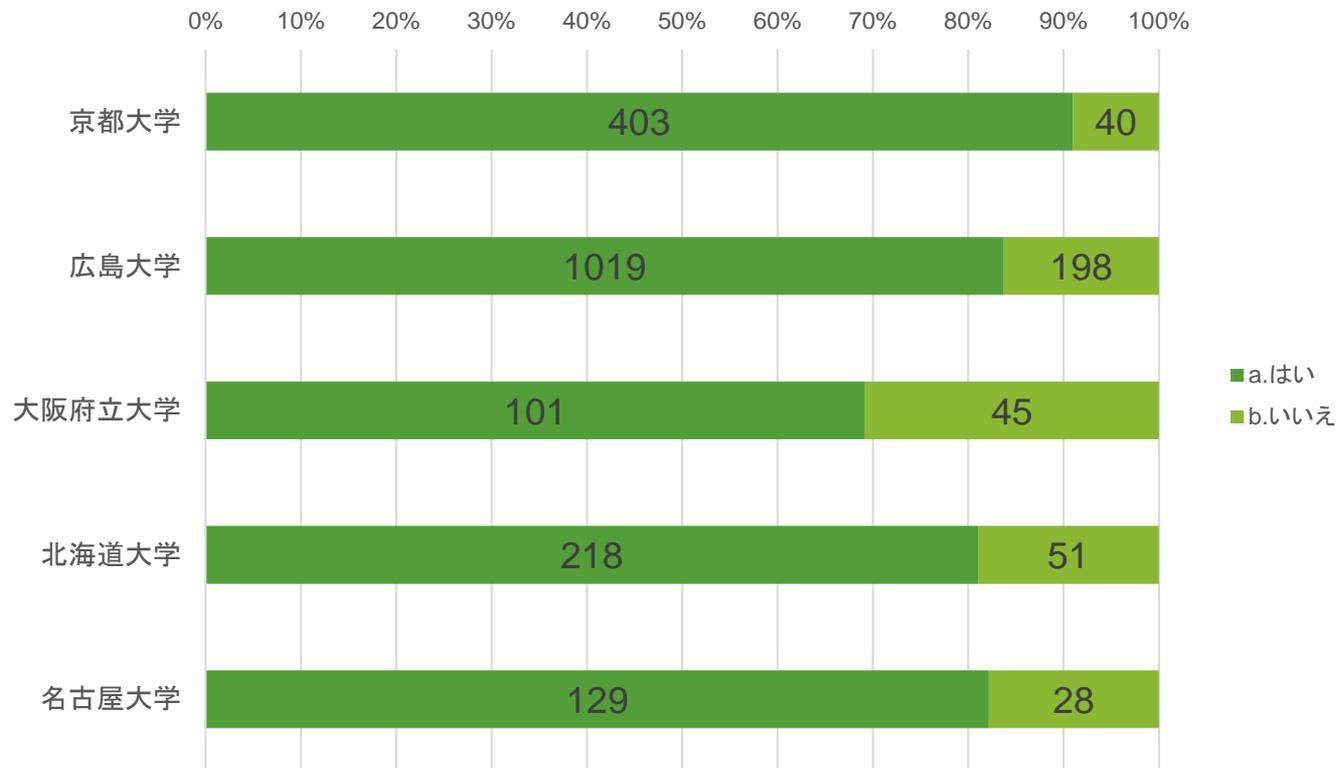
# Q04. 研究データのバックアップ状況

Q04. 収集・作成した研究データのバックアップを定期的にとっていますか？



# Q05. 研究公正維持を目的とした データ保存の対応状況

Q05. これまでに公表した論文等(共著の論文を含みます)について、研究公正上の問題が生じたときに、根拠となるデータにアクセスできますか？



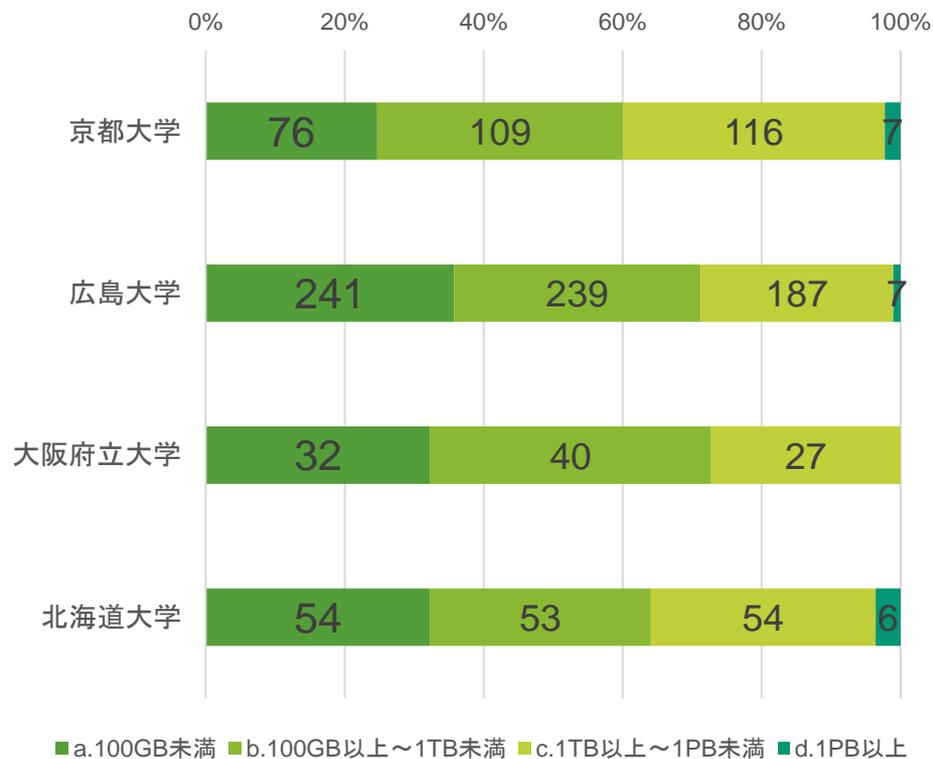
# Q06. 機関が整備する研究データ 管理環境の必要性

Q06. 研究データ管理のための環境が本学で整備された場合、その環境で保管したい研究データはありますか？

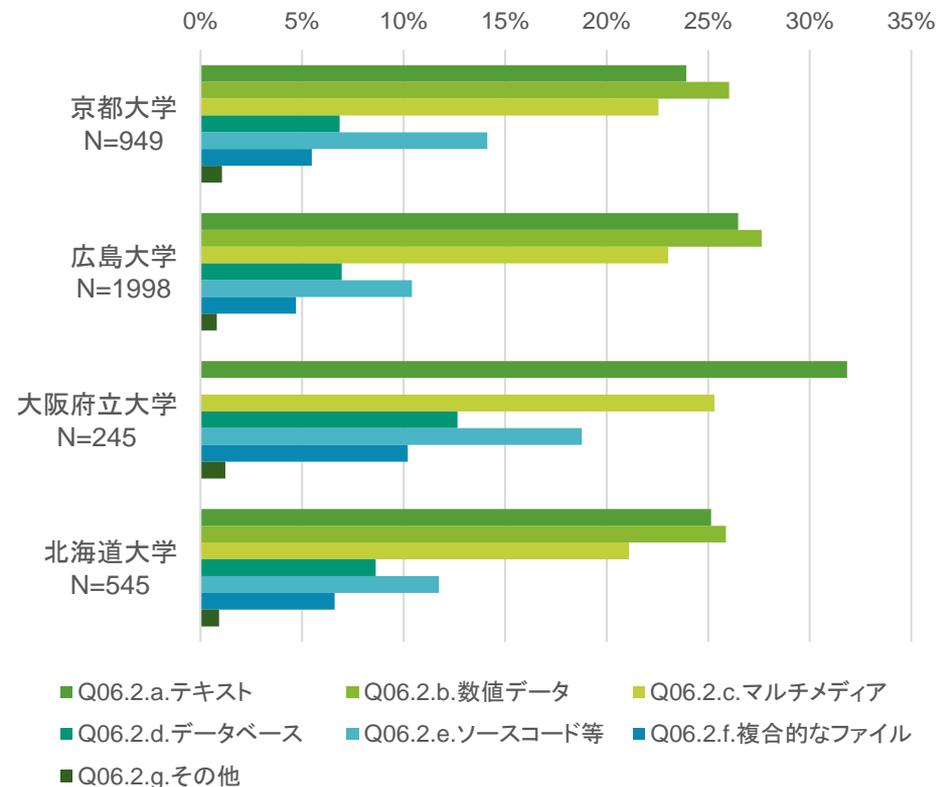


# Q06.x. 管理したいデータの サイズ、種類

Q06.1. 保管したい研究データの規模はどの程度ですか？

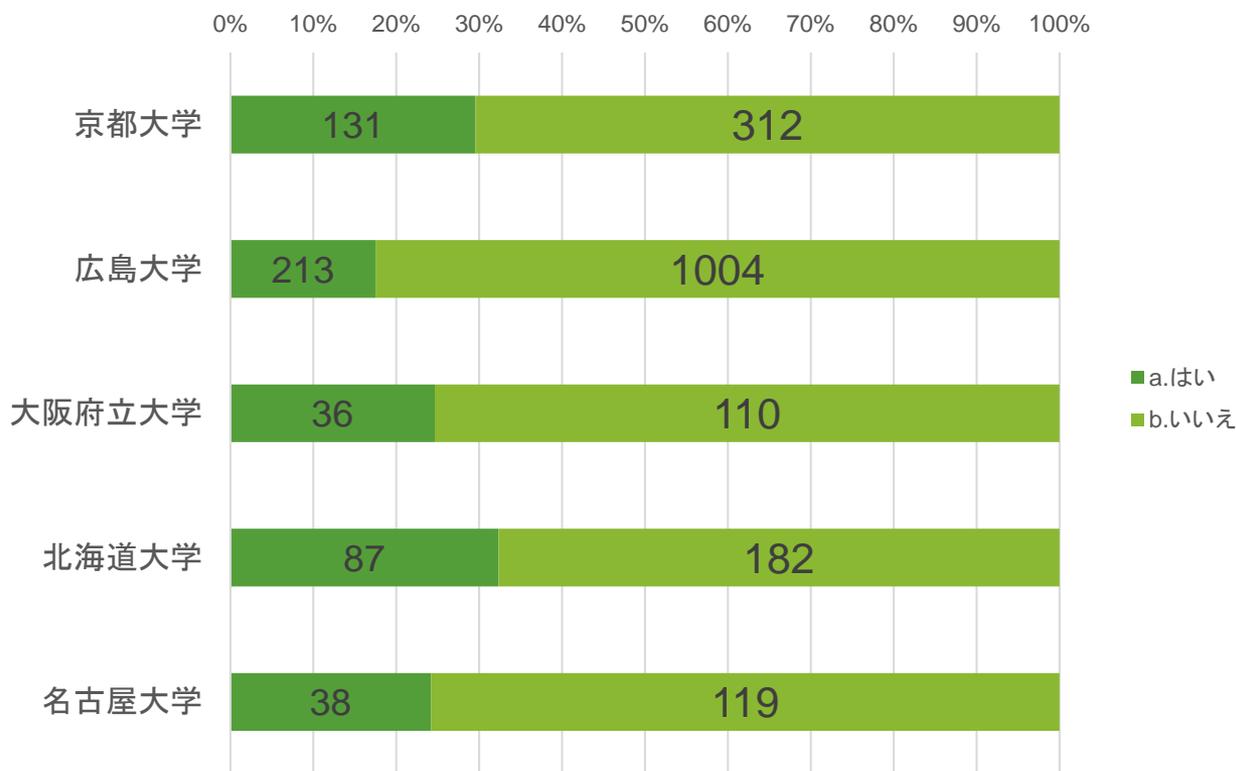


Q06.2. 管理対象のデータのタイプはどのようなものですか(複数選択可)



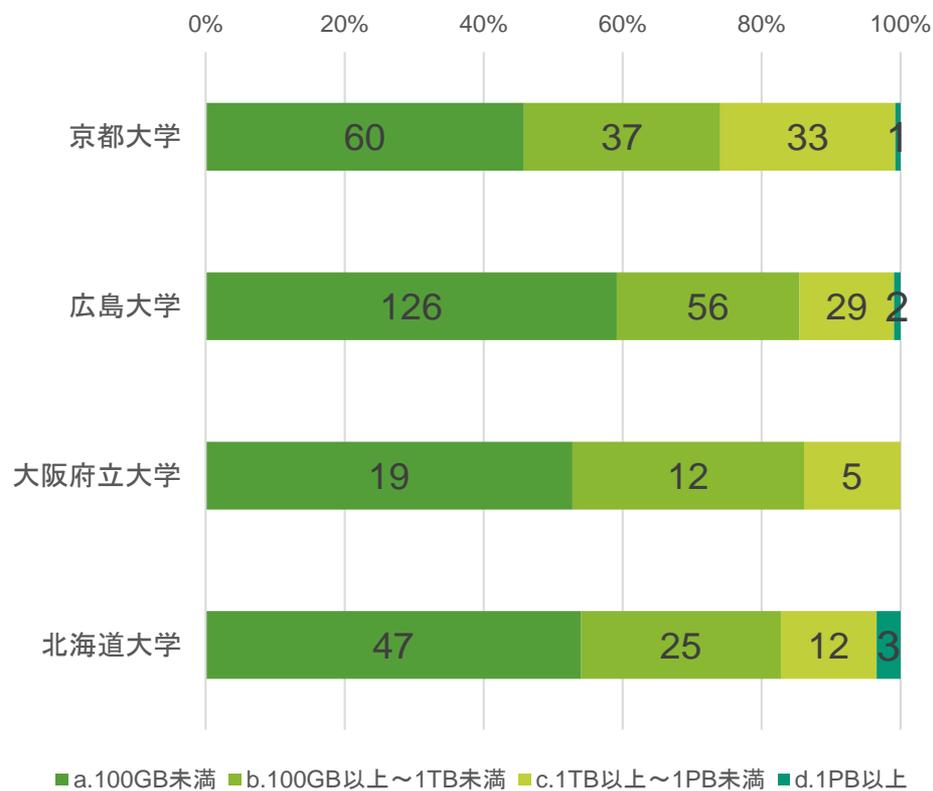
# Q07. 機関が整備する研究データ 公開環境の必要性

Q07. これまでに収集・作成した研究データのうち、現在まで公開していないものの、大学が整備する環境があれば、公開可能な研究データはありますか？

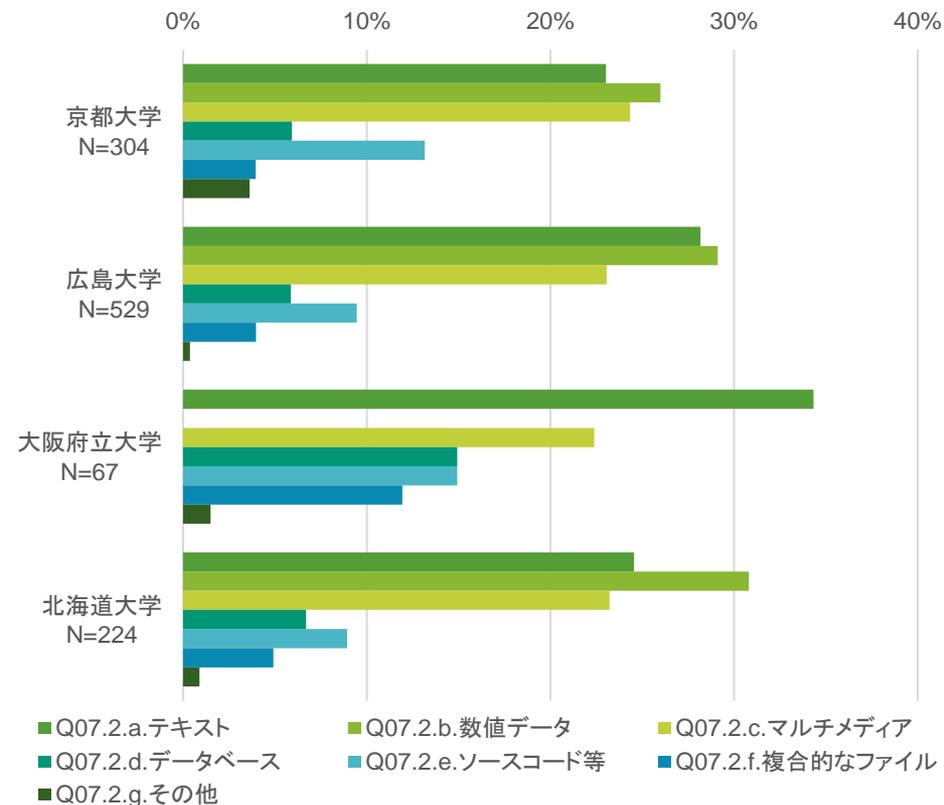


# Q07.x. 公開したいデータの サイズ、種類

Q07.1. 公開したい研究データの規模はどの程度ですか？



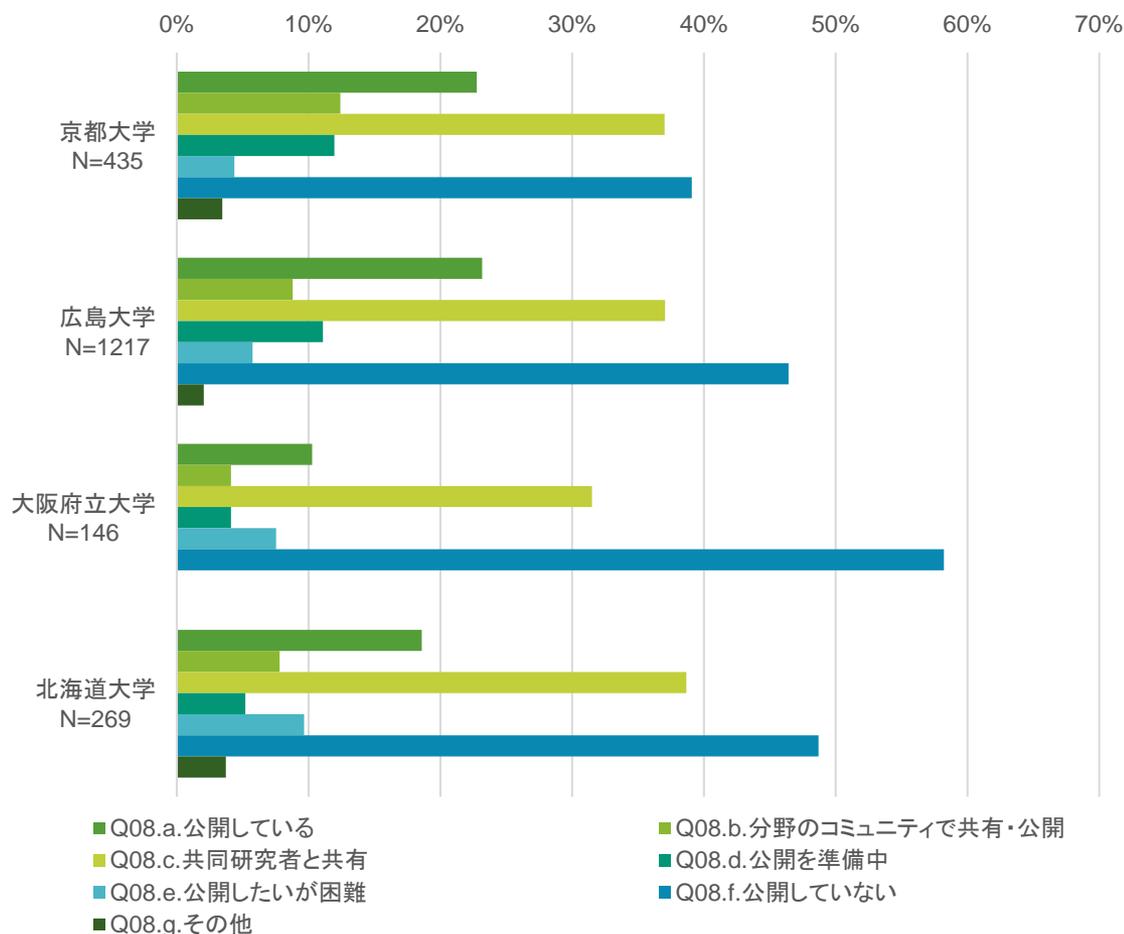
Q07.2. 公開対象のデータのタイプはどのようなものですか(複数選択可)



# Q08. 研究データの公開, 共有の状況

Q08. これまでに収集・作成した研究データを既に公開または共有していますか？当てはまるものをすべて選んでください。

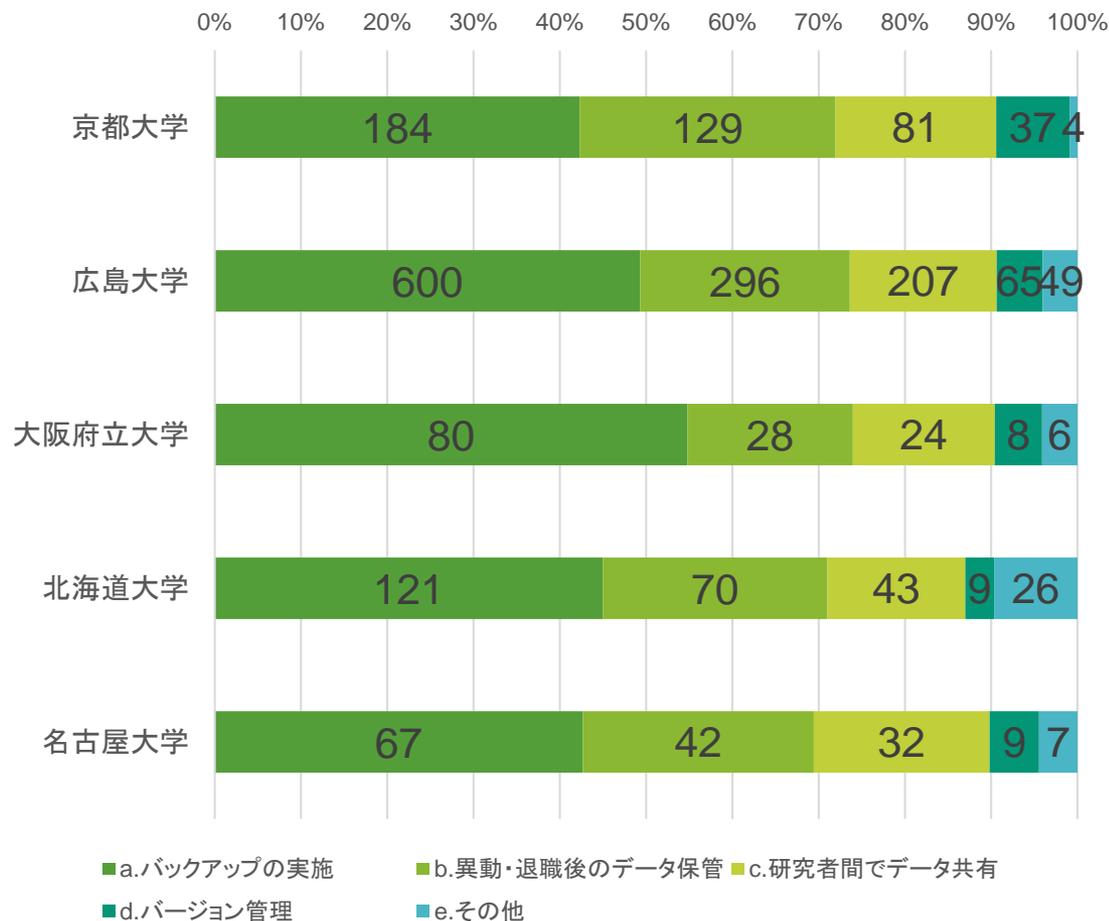
- a. 公開している
- b. 分野のコミュニティで共有・公開している
- c. 共同研究者と共有している
- d. 公開を準備している
- e. 公開したいが、個人での公開は困難
- f. 公開していない
- g. その他



# Q09. 機関による研究データ管理環境への期待

Q09. (個人や研究室等による管理ではなく、)大学組織が整備した環境で研究データを管理する場合、何に期待しますか。最も当てはまるものを1つ選んでください。

- a. 研究データのバックアップが定期的に実施される
- b. 異動・退職後も大学で研究データが保管される
- c. 研究者間で研究データを共有しやすくなる
- d. 研究データのバージョン管理が容易になる
- e. その他



# Q10. 機関による研究データ 公開環境への期待

Q10. ご自身が収集・生成した研究データを積極的に公開する場合、何を期待しますか？最も当てはまるものを1つ選んでください。

- a. 公開した研究データが他の論文から引用される
- b. 研究データを公開することが大学や部局による個人評価につながる
- c. 異なる用途で利用されることで、研究データに新たな価値が付け加わる
- d. 同一の研究データを使用する研究コミュニティが大きくなる
- e. 論文投稿のために研究データ公開が必要である
- f. その他

